研究室紹介

和歌山県果樹試験場 環境部

和歌山県はみかんの生産量が16年連続で全国1位を更新中です。なかでも県の中部に位置する有田地方は400年の歴史を持つ県内随一のみかん産地です。和歌山県果樹試験場はその有田郡有田川町にあります。当試験場は，1910年（明治43年）に旧田殿村に発足した有田郡農会立園芸試験場を前身とします。その後，1914年（大正3年）に県立移管し，1961年（昭和36年）に現在地に移転しました。2012年（平成24年）に和歌山県果樹試験場と改称し現在に至ります。

当試験場は県内に3箇所ある果樹関係の試験研究機関のうちの1つで，みかんをはじめとする常緑果樹に関する試験研究を分担しています。栽培部と環境部の2部体制で，環境部は5名の研究員が配置されています。環境部の主な業務は，常緑果樹の病害虫の防除対策，果樹園の機械化・省力化，鳥獣害対策に関することです。以下に，現在取り組んでいる主な研究課題を紹介します。

1　カンキツ黒点病の防除対策

カンキツ黒点病は温州みかんの主要病害です。黒点病の慣行防除薬剤（マンゼブ水和剤，マンネブ水和剤）は累積雨量200～250 mmまで効果が持続しますが，近年は累積雨量が250 mm以上となる集中豪雨が増加し，薬剤の効果が切れて本病が多発する場合があります。そこで，薬剤の耐雨性を高めるなど，集中豪雨に対応した黒点病の防除対策の確立に取り組んでいます。

カンキツ黒点病

ビワキジラミ幼虫

ドローンによる農薬散布

潜り込み式ゲートによるシカの捕獲

2　ビワの新害虫ビワキジラミの緊急防除対策

ビワキジラミは2012年に徳島県で発見された新種の害虫です。本県でも2018年に生息が確認され急速に分布域を拡大していることから，県内における発生実態の解明，有効薬剤の探索および防除体系の確立に取り組んでいます。

3　ドローンを利用した病害虫防除技術の開発

カンキツ園地は傾斜地が多く，農薬散布は重労働です。近年はドローンによる農薬散布技術が注目されていますが，果樹では防除効果の知見がなく，高濃度少量散布が可能な農薬も極めて少ない状況です。そこで，カンキツにおけるドローンを利用した農薬散布技術を確立するため，病害虫の防除効果の解明，効果的な農薬散布方法の検討，ドローンで散布できる農薬を増やすための適用拡大試験に取り組んでいます。

4　効率的で持続的なシカ捕獲技術の開発

既存の囲いワナに取り付ける「潜り込み式獣類捕獲ゲート」を開発し，特許出願しました。このゲートは，防護柵の隙間をくぐり抜けて農地に侵入しようとするシカの習性を逆利用したもので，複数捕獲・連続捕獲が可能で，低価格で誤作動も少ないという特徴があります。2020年度からは，防護柵と本ゲートを融合させた「捕獲防護柵」の開発にも取り組んでいます。

（部長　井口雅裕）

〒643-0022　和歌山県有田郡有田川町奥751-1
TEL　0737-52-4320

非売品